

実際の入試問題を使って、この講座の効果をご説明します

社会科学 No.5

医療と貧困 —— 健康格差・社会的決定要因・SDHを3軸で読む

★ 清光学院の講師は、社会疫学・健康格差を専門とする大学教員です。健康格差の社会的決定要因（SDH）を研究者として深く知っており、その経験がこの講座の根拠になっています。

1. この講座が有効な入試問題のタイプ

① 健康格差・社会的決定要因を問う小論文

「健康格差はなぜ生じるのか」「社会的要因と健康の関係を論じよ」という小論文は医学部・公衆衛生系で頻出である。SDH（社会的健康決定要因）という概念を持つ受験生は、医学と社会科学を横断して論じられる。

② 地域医療・格差是正を問う問題

「医療アクセスの地域格差をどう解消するか」という問いは地域枠入試の定番である。健康格差の構造を知っている受験生は、個人責任論ではなく社会的解決策を提案できる。

③ 「社会と医師の役割」型の面接

「医師は社会問題にどう関わるべきか」という面接質問に、健康格差・貧困という社会的決定要因から答えられる受験生は、試験官に広い社会的視野があると判断される。

2. 具体的な大学・学部との対応

| 大学・学部 | 出題の傾向 | 本講座との対応 |
|-----------------|---------------------|-------------------------|
| 医学部全般（小論文） | 健康格差・社会的決定要因を論じる問題 | SDHの枠組みが健康格差問題の論述を体系化する |
| 地域枠・地域医療推薦 | 「地域医療の課題」「医療格差」型の問い | 健康格差の構造が地域医療論の根拠を与える |
| 公衆衛生・保健学部（全般） | 社会疫学・健康格差の政策対応 | SDH3軸が政策論議の枠組みになる |
| 医学部推薦・総合型選抜（面接） | 「社会と医師の役割」型の問い | 採点者（大学教員）に社会的視野の広さが伝わる |

3. なぜ差がつくのか・受講後に期待できる変化

「貧しい人にも医療を提供することが大切です」という答えは採点者には「構造的理解がない」と映る。授業の詳細な内容はここでは述べないが、受講後には（1）健康格差の社会的決定要因を3軸で説明できる、（2）医療と貧困の構造的関係を論じられる、（3）面接で社会的公正と医師の役割を論理的に語れる、という変化が起きる。

清光学院の講師陣は、関連する入試問題で「表層的な答案」と「深い理解を示す答案」の評価の差がいかに大きいかを採点者として知っている。その実感が、この講座の根拠である。